opusdei.org

## 属人区長の書簡 〔2014年8月〕

今月の書簡では、エチェバリア司教は、聖ホセマリアとドン・アルバロのように"最後の戦い"に打ち勝つための内的生活における日々の小さな戦いに励むように勧めています。

2014/08/06

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 司牧訪問中の中央アメリカからした ためます。ここ六カ国で定着しているオプス・デイの使徒職に創立者が 「オプス・デイに思いをいたすと 『唖然とする』ばかりだ」と言って おられたことを実感しています。

この愛すべき国々で、まず心に浮か ぶことは心から神に感謝するしかな いということです。使徒職の豊かな 実りを目の当たりにしたのですか ら。グァテマラからパナマまで、霊 的生活の輝かしい成果を皆と一緒に 眺めています。それは様々な人種や 多くの言語に溢れた人々の生活に語 られていることです。スペイン語の ほかに、様々な先住民の言葉が使わ れているのです。この眺望に、また もや聖ホセマリアが度々繰り返して いたことを思い出しました。「地上 には神の子と称される一つの人種し か存在しません。(…)同じ言葉を話 さなければなりません。イエスが御 父と対話なさる言葉、心と知恵から

出る言葉、今みなさん方が祈りにお 使いになっている言葉です。神の子 であることを自覚した観想的な人々 の言葉を使わなければならないので す。| [1]なぜなら一創立者がもう 一つの説教で説明しています―イエ スは「全人類に、平和と福音と生命 をもたらすために来られました。金 持ちのためだけではなく、貧しい 人々のためだけでもありません。賢 い人々のためだけではなく、素朴な 人々のためだけでもありません。兄 弟である全人類のために来られたの です。私たちは皆、同じ父なる神の 子ですから兄弟なのです。| [2]

この地での滞在も一週間を残すばかりになりましたが、引き続き、祈りと犠牲、専門職、そしてほとんどの人が今の時期を活用している休息のときを捧げて私に同伴してください。そうすると霊的な実りがふんだんにもたらされることでしょう。いつも教皇様のために祈ってくださ

い。特に今月の韓国へのご旅行の間、いっそう教皇様に一致してください。韓国では多くのカトリック信者と数知れない善意の人たちが待っています。

よく思い起こしてもらっているように、8月は聖母の祝日の多い月です。2日の天使の聖母の祝日と22日の聖母のご戴冠の間に聖マリア大聖堂の献堂記念(8月5日の雪の聖母)、そして何よりも聖母の被昇天祭がリも聖母の被昇天祭リーでは、聖ホセマリアの街とドン・アルバロ、そして神の御音とは、創立者が1951年8月15日には、自立者が1951年8月15日になき、からない。

この日の典礼の朗読では、太陽をまとい、月を踏み台にし、12の星の冠をつけた婦人が、その愛する子どもを飲み込もうとしている地獄のドラ

ゴンと戦っている黙示録の場面が読 まれます[3]。この姿は第一に教会 を象徴しています。「栄光と勝利を 表していますが、痛みをも表してい ます」と、教皇フランシスコがある 説教で言っておられます。「天国で は既に主の栄光に与っていますが、 この世では絶えず、様々な試練に合 い、また、神といつもの敵・悪魔と の戦いを伴う種々の挑戦を受けてい ます。| [4]この場面から非常に明 白な教えが引き出されるでしょう。 私たちの聖性の道である日常生活で 神に忠実であるよう戦い続けること が必要です。聖ホセマリアは晩年、 神への応答を要約するかのように、 こうしたためました。「この世で私 達がなすべきことは、戦うこと、愛 ゆえに最後の瞬間まで戦うこと。| [5]この日々の戦い―勝利あり、敗 北ありですが、敗北もゆるしの秘跡 に赴き、立ち上がることができます 一がないとしたら、高慢な者になっ てしまいます。この戦いに勝つた

め、あるいは負けることがあったらすぐに立ち直るため、神の恩恵と、 多くの仲介者の助け、特に聖母の助けを頼りにすることです。

「<キリスト信者の助け>。確信して連祷を唱えなさい。困難に襲われたとき、試しにこの射祷を唱えたことがあるだろうか。子どものような愛情と信頼の心で唱えるなら、勝利に導く聖母マリアのとりなしの効果がよくわかるだろう。」[6]

聖母もまた、地上でのご生活中、困難や大変な試練を経験されたのです。しかし聖母は、ナザレでのfiat!なれかし!を心に生きいきと保られなどもにも神に忠実であらました。ドン・オリンの一致を絶えずにでいます。で恩寵に対していかなる抵抗もずにでいた。「ますは神との一致を絶えずに対していき、で見いに教会がこの体と記れる唯一無比の出来事、その体と記した。

魂ともども天国の光栄に入られた被 昇天が実現したのです。| [7]

また黙示録の婦人は聖母の姿でもあ ります。教会のように「聖母にも、 この二つの側面があることは確かで す。聖母が天国の栄光にお入りに なったことは当然です。しかし、こ れは私たちから遠く離れたところに おられるという事ではありません。 その逆で、マリアは私たちに付き 添って共に戦い、悪の力に対抗する キリスト者を支えておられるので す。マリアと共に祈ること、特に口 ザリオにも(…)、この<苦しみ>の側 面があります。つまり戦いです。そ れは、悪魔とその仲間たちに立ち向 かう戦いを支えてくれる祈りで す。| [8]

ドン・アルバロの他の勧めに耳を傾けましょう。創立者の模範に倣ってマリアへの深い愛から出たことです。「子どもたちよ、神と霊魂の敵

に負かされたくないなら戦わなけれ ばなりません。恩恵の助けと神の御 母の強力な執り成しを頼りにしま しょう。恐れることはありません。 私たちがすべきことは主により頼 み、教会が差し出す手段を使うこと です。祈り、犠牲を捧げ、ゆるしの 秘跡とご聖体を度々受けることで す。イエスに忠実でありたいと申し 上げましょう。そして聖母にはこう 申し上げましょう。私の母上、私は あなたの御子に忠実でありたいので す。それで、あなたの執り成しを頼 りにしております。主があなたに耳 を傾けられないことはないはずで す。」[9]

被昇天祭は、聖母に特別な贈り物をするチャンスです。一人ひとりが頂いたキリスト信者の召し出しへの忠実を新たにすることです。私たちを神から引き離したり遠ざけたりする事柄に対して、より決定的で、より強力な回心でそれを示しましょう。

そのため、特に告解の前には良心の 糾明を細やかにすることです。聖マ リアに頼みましょう。「神の者とな り、神のために、私たちの目立つ特 徴になるようなfiat!で、主に答える ことができますように。」[10]

ドン・アルバロは、その晩年には特に熱心でしたが、いつも聖ホセマリアが伝えていたある教えを生きいき

と心に刻み付けていました。創立者 は言っていました。「戦いでは何度 も敗れることがあり得ますが、実は さして大切なことではありません。 幸せをもたらす最後の戦いに勝つこ とが大事なのです。内的生活におい て一今話したように、闘争と戦いで ある一は、絶対に敗れない方がいい のです。いつ死ぬか分からないので すから。まだ若いときに逝く人、力 強い成人になって逝く人もいます。 多くの場合、老人たちは長生きを望 みます。しかし、いつ神に生涯の報 告をしなければならないかは誰にも 分からないのです。

それゆえ、最後の戦いに負けたら戦いに敗れたことになります。主と私たち一人ひとりだけが知っているときに考いの中で(…)、戦っているときに考えなければなりません。これが最後かもしれない、負けることはできない、一生を台無しにしてしまうような馬鹿なことはしたくない、と。

戦いです。子どもたちよ、戦うことです。人々に戦うことを教えなさい。幸せになるためであり、これが道です。| [11]

ドン・アルバロは、主が全能であら れることを倦むことなく繰り返し、 私たちには失敗を恐れずに働くよう にと頼んでいました。Si Deus pro nobis, quis contra nos?[12]神が私 たちと一緒なら、誰が私たちに刃向 かうことができますか。しばしば聖 パウロの言葉で自問しておられまし た。そして、度々、聖書にあるペリ シテ人に対するダビデの戦い[13] に触れ、桁外れに違う両者の武器の ことを考えておられました。槍を持 ち、盾と鎧を着けたペリシテ人に対 してダビデは牧人の小さな石投げ器 と川原で拾った石を幾つか持ってい るだけでした。ところが、あの戦い で勝利者になったのは、自分の力に ではなく神の力を全面的に信頼して いたダビデです。

被昇天祭の福音には、私たちに希望を告げる歌マグニフィカトが入っています。「日々、生と死、善と悪の間の戦いを体験しつつ、キリストの復活、愛の勝利を信じることは一つの徳です(…)。マリアが歌うマグニフィカトは希望の歌であり、歴史の中で歩みを続ける神の民の歌です(…)。

この歌が特別な強さで響き渡るのは キリストの御体が苦しむご受難にお いてです。キリスト信者の私たちに とってはいつも、主の聖十字架のあ るところ、そこに希望があるので す。希望がないならキリスト信者で はありません。ですから私はこう言 うことが好きです。希望を失わない で下さい。希望を奪われないよう に、この徳は神の恩恵なのですか ら。それは、天を見つめて前進させ る神の賜なのです。そしてマリアは いつもそこ、天におられ、これらの 共同体、私たちの兄弟たちと共に歩 み、共に苦しみ、共に希望のマグニフィカトを歌っておられます。」[14]

今月22日に祝う他の聖母の祝日に触れないわけにはいきません。全被造物の女王聖マリアの祝日です。ドン・アルバロがこう言っています。「私は、この戴冠によって、御父・御子・聖霊の至聖三位一体があたかも天使たちと聖人たちの女王であるマリア様を一非常に特別に一、ご自分のものにされたように想像しま

す。これはとても偉大なことで、まるで光りの爆発のようだったのではないでしょうか。そうして聖母が一その聖性、その清純さ、その美しさによって一全てのものの上に上げられるように、皆に称えられ、敬われ、もっと強い力で愛されるために。|[15]

キリスト信者としての召し出しに忠 実に留まるなら私たちもこの幸せな 目標に達することができるでしょ う。過ちや間違いと共に一既にでな たことですが一、しかし、必要 たことでもきっぱりと立ち上が明 の秘跡にあずかり、ご聖体の リストに一致し、天の御母に信頼 して助けを求めつつ歩むことです。

「普段の生活を聖化する戦いの、の素晴らしい小径を歩むことを弁えているならば、私たちもまた、地上の生活の果てには天国の光栄があると考えていいのです。この小径は、主イエスと、その祝すべき御母がナザ

レでのご生活で示され、私たちの愛すべき聖なる創立者が惜しみない心で倣ったものです。」[16]

31日、トレシウダでアソシエートの 二人の兄弟に司祭叙階の秘跡を授け ます。聖にして母なる教会に仕える オプス・デイ全体の一致を強化する 機会になるでしょう。

愛するドン・アルバロの列福式まで 二ヶ月足らずになりました。ここし ばらく提案してきた勧めを見なおす ようお願いします。一人ひとりが惜 しみない心で自由に、思いついたこ とを実行し、この恩恵の時に全員心 を込めて準備しなければなりませ ん。

多くの人が、病気や高齢、持ち場を離れることのできない専門職、旅費の工面ができない…など種々の理由からマドリードに行くことはできないでしょう。しかし、皆が、この祭儀に、またローマで引き続いて行な

われる祭儀にも参加できるでしょう。皆さんの祈り、困難を捧げること、列福式に参加するオプス・デイの信者や協力者、友だちとの霊的な一致は、主が人々に十二分な恩恵を注がれるための効果的な貢献となることでしょう。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

サンホセ・デ・コスタリカ、2014年 8月1日

[1]聖ホセマリア、『知識の香』13 番。

[2]同上106番。

- [3]黙示録12,1-6参照。
- [4]教皇フランシスコ、2013年8月 15日説教。
- [5]聖ホセマリア、1971年12月31日 手書きのメモ。
- [6]聖ホセマリア、『拓』180番。
- [7]ドン・アルバロ、1993年8月1日 手紙(『家族の手紙』III, 258番)。
- [8]教皇フランシスコ、2013年8月 15日説教。
- [9]ドン・アルバロ、1989年8月15 日被昇天祭の説教。
- [10]ドン・アルバロ、1976年9月8 日説教。
- [11]聖ホセマリア、1972年4月8日 家族の集まりでのメモ。
- $[12] \Box 78,31.$

- [13]1サムエル17,39-51参照。
- [14]教皇フランシスコ、2013年8 月15日説教。
- [15]ドン・アルバロ、1976年9月 8日説教。
- [16]ドン・アルバロ、1993年8月1 日手紙(『家族の手紙』III, 258番)。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-8yue/ (2025/12/16)